

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年10月号

森のおくりもの10

NO.385 The Gift from Woods

ヨコヅナサシガメ (サシガメ科)



赤い体？お腹が黒？ゆでたエビより真っ赤な姿は「なんですかアナタ！」。遠めでも目立つ光沢のある赤色は「ヨコヅナサシガメ」の脱皮中の姿でした。本来の姿は黒を基調としているのですが、脱皮直後の姿は赤色...それにしても脱皮直後に鮮やかな色はアピールすぎ、見つけさせたいのでしょうか。襲われても体が柔らかいと逃げられないと思うのですが、派手さが不思議です。肉食性のカメムシの仲間では長いストロー状の口には注意が必要ですが、この時期に出会えるカメムシ類は、ほぼ成虫や終齢幼虫です。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『魚の目に水見えず 人の目に空見えず』

今年は9月になっても夏の暑さが衰えず、真夏日が続きました。8月は雷雨が多い月なのにずっと雨が降らず、晴天続きでした。池の水が干上がりそうで、きのこも生えてこないと感じるほど森が乾燥していました。そんな時、熱帯低気圧や秋雨前線の影響でまとまった雨が降りました。各地で線状降水帯による大雨などで水害が発生し、被害に遭われた方は大変なことだったと思います。幸いにも自然観察の森は無事で、森にとっては恵みの雨となりました。種々のきのこが久々の雨で息を吹き返したようにあちらこちらで大発生し、草木も潤い喜んでいるように見えました。雨って本当に大事なのだと思いました。

ひどい暑さや雨が降らない状況に直面し、どうしてしまったのだろう、地球温暖化の影響だろうかと思いました。最近、世界各国での気象災害や異常現象を見聞きして、温暖化が進行していると感じ、ただならぬ危機感を覚えます。

『魚の目に水見えず 人の目に空見えず』という言葉があります。「水中に棲んでいる魚には水が見えないし、人間には空が見えない。それと同じであり身近にあるものは目に入らず、ありがたみもわからないということ。どんなに大切なものでも身近にあると感謝やありがたみの心は薄れてしまうという喩え」です。身近なものや当たり前にあるものは、失ってはじめてその大切さに気づくということがよくあります。しかし、失ってしまってからでは手遅れで、取返しのつかないことかもしれません。

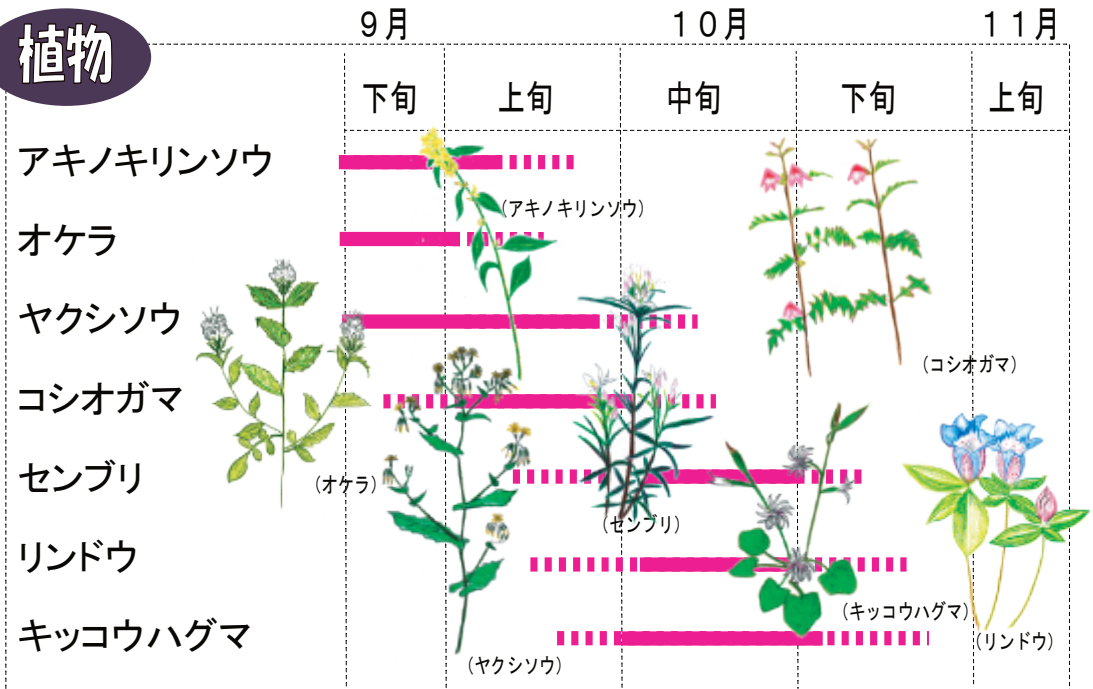
秋は感謝の意味を持つものが多い季節です。私たちは、便利な生活や安全な暮らしに慣れ、それらが当たり前にあるものと、感謝の気持ちを忘れてしまっています。毎日無事過ごせるのは普通のことだと思いがちですが、それは普通ではないことを認識し、様々な恵みに感謝する心と平和のありがたさを感じて見直すのにはいい季節かもしれません。

【レンジャー：新田隆一】



10月の生物ごよみ

植物



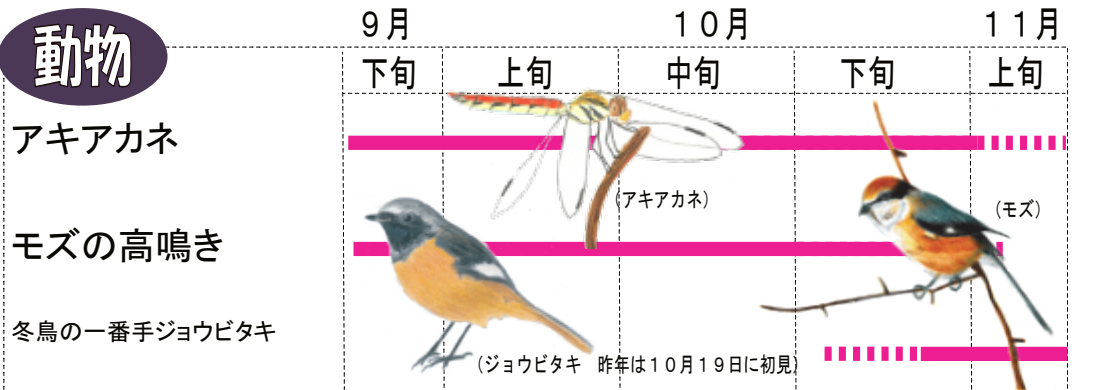
今年の9月は本当に暑かった。9月の中頃まで30度を超える毎日で、エアコンに頼る日々が何日も続きました。いつもの仙台ではお盆を過ぎれば涼しくなり、そのまま秋へと進んでいったものですが、今年は全国的に異常といっているほどの暑さが続きました。

しかし『暑さ寒さも彼岸まで』とはよく言ったものです。秋分の日を境に仙台ではぐ〜っと気温が下がり、過ごしやすい日々が続いています。秋は確実に進んでいるのですね。植物の開花も今までよりも10日ほど遅れましたが、ヒガンバナもちょうどお彼岸過ぎから咲きはじめました。

センターでは今、『スズムシ』が盛んに鳴いています。秋の訪れを感じさせる虫の声。涼しげなスズムシの音色を聞きにどうぞお越しください。

【レンジャー：齋 正宏】

動物



(ジョウビタキ 昨年は10月19日に初見)

森の「あれこれ」



「きのこは…」



きのこは特定の菌類の胞子を作る器官、植物でいえば“花”みたいなものですが、様々な色や形や質感があっけいから見ても飽きません。その菌類の役割も多様で、枯木や落ち葉や栗のイガまで様々なものを分解して植物に必要な土壌にしてくれたり、菌根菌と呼ばれる特定の植物と共生関係を持って成長を助けたりする仲間もいます。



タマゴタケ(写真上)も菌根菌の仲間です。雨の後大発生しました。右の写真の輪菌(きのこが環状に発生する現象)があちこちに見られるで別世界でした。ところでタマゴタケはわかりやすいきのこですが、調べても判断がつかないきのこも私にはたくさんあります(笑)。下の写真もあちこちで大発生しました。傘の下面はひだでなく多数の穴(管孔)になっているのでイグチの仲間と判断できます。傘は明るい燈褐色、表面は平滑で粘性はなし、柄は傘と同色…等々図鑑で特徴を一つ一つ確認しコガネヤマドリと結論を出しましたが、が、どうでしょうか(苦笑)。いずれ知らないことを知っていく過程は楽しいもの。きのこは一年中観察できますが、特にこれからの季節に多く見られます。どんなきのこに逢えるのか楽しみです。 【レンジャー：木田秀幸】



森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*~*)

コナラの葉の上をせわしなく飛ぶチョウがいました。止まっているときは翅を閉じて、翅の裏側を見せています(写真①)。地味なチョウだな、とよく観察していると翅を広げた一瞬、鮮やかな青色がちらちらと輝きました。なんてきれいな色だろう、もう少し見てみたいとしばらく翅を広げて止まるのを待っていたのですがなかなか翅を広げてくれません。わずかに広げそうな気配を感じてシャッターを切り何とか表の様子が確認できました(写真②)。ムラサキシジミの雌で、産卵場所を探していたのかもかもしれません。 …(^~^♪



ムラサキシジミの生息分布は、関東より西部とか宮城県以南などと様々に記載されています。成虫越冬するのでウラギンシジミのように越冬が十分に可能であればさらに分布を広げ、生息が北上するのかもしれませんが。幼虫時代は体から化学成分を含んだ蜜を分泌させアミアリなどに与えて生活します。蜜をもらったアリは幼虫を守るような行動をとりますが蜜内の物質によりコントロールされているという報告もあります。蛹になれるようにアリを手懐けるとはすごいですね。翅の青色は構造色で色あせることはありません。鮮やかな青色の小さな蝶が舞う姿をぜひ探してみてください。(^^♪【レンジャー:菅原幸彦】

10月のイベント&お知らせ



◆「秋色の森の自然あそび」

- 【日時】10月21日(土) 10:00~12:00
- 【対象】小学生以上の子どもとその保護者 10名
- 【内容】草花などの自然の素材を使ってあそび、秋の自然に親しみます
- 【申込み】10月6日(金)午前9時より電話受付(先着)

◆「色づく秋の森を散策しよう」

- 【日時】10月28日(土) 10:00~12:00
- 【対象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】森を歩きながら紅葉の色の違いを観察して自然を楽しみます
- 【申込み】10月7日(土)午前9時より電話受付(先着)

◆「紅葉の写真を撮影してトリックアートを作ろう」

- 【日時】11月3日(金、祝) 10:00~12:00
- 【対象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】紅葉の写真を撮影し見る方向で絵柄が変わるトリックアートを作ります
- 【持ち物】デジタルカメラ(SDカードを使用するもの)
- 【申込み】10月9日(月、祝)午前9時より電話受付(先着)

◆「晩秋の蕃山を歩こう」 ※茂庭台市民センター集合・解散

- 【日時】11月4日(土) 9:30~15:00
- 【対象】18歳以上 20名
- 【持ち物】昼食、飲み物、帽子、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】10月20日(金)必着で往復葉書にて(抽選)



ガイドウォーク

毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: **1日, 8日, 15日, 22日, 29日**
時間: 10:00~11:30、13:30~15:00
※4月~11月は午前・午後の2回実施します

休館日



2日, 10日, 16日, 23日, 30日
毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

観察の森へのアクセス

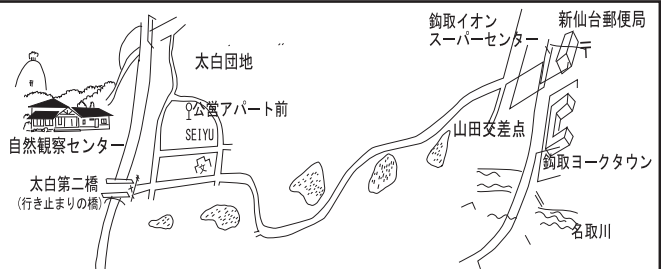


宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」
※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会
編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター